

高校生1割が島外出身



◇40◇

第1部 開発の現場から

久米島町が今春、町仲泊に整備した交流学習センター「じんぶん館」。県外を含む島外から久米島高校に「離島留学」する生徒のための寮施設だ。市町村レベルで島外の子ともたちの受け入れを担う施設は、全国的にも珍しいという。6日、生徒13人や保護者が集まり、入寮式があった。

離島留学@久米島(下)



島外から久米島高校に「留学」する生徒に提供する寮「じんぶん館」の入寮式。6日、久米島町(同町教委提供)

たいという思いがある。定員割れが続いた園芸科に対し、県は廃科の方向性を示した。危機感を抱いた町や町教委は、島外からの「留学生」受け入れに乗り出す。2013年、初めて東京や大阪で説明会を開き、島で学ぶ魅力を訴えた。

「留学」が始まった14年度、島外からの新入生は4人。15年度には10人が加わった。この春には7人を受け入れ、全学年に生徒がそろった。東京や神奈川、千葉、埼玉など関東圏を中心に21人が在籍。全校生徒の1割近くを占める。

「自然や島の雰囲気が好きだったり、離島医療に興味がある子もいる。それぞれ個性を發揮し、溶け込んできた。島の子どもたちにも、いい刺激を与えてくれている」

久米島高校魅力化支援事業のスタッフで、町教委の斉藤ゆいさんは目を細める。斉藤さん自身も島民の熱意に共鳴し、移住

島の「魅力化」知恵結集

を決めた。

町教委は、島根県海士町の県立香岐島前高校など県外の先進例も参考にしながら、対策に取り組む。公設民営の学習塾「じんぶん館」の設置も「魅力化」の一環だ。

斉藤さんは「子どもたちの進路もそれぞれ。ただ、大人になっても多感な高校時代を過ごした場所は心に残る。『久米島のために何かできないか』。そう思ってくれる人が増えれば、広がり期待できる」と話す。

企業も危機感を共有している。若者の減少は産業を衰退させる。雇用の場が生み出せず、さらに人口の流出を招く。この悪循環を断ち切らなければ、島の存亡にも関わりかねないからだ。実際、人口減少は深刻だ。

01年の合併時に1万人近かった人口は15年間で約2割減少、8千人を割り込んでいる。

島高校の魅力化と発展を考える会」の会長を務める、久米島商工会の嘉手刈一会長は「人材育成は行政だけの問題ではない。島全体の責任として受け止めている」と話す。

海洋深層水を産業化につなげ、最先端の技術や企業が集積されつつあるのが久米島の「強み」だ。嘉手刈会長は「オンラインの企業を、小さくとも数多く育てたい。その集合体が島のブランドになり、さらに企業を呼び込む力になる」と話す。

嘉手刈会長は「中央の情報をうのみにすれば、離島など弱い地域は疲弊していく。足元を掘り起し、自らの頭で主体的に考える時期だ」。そして力を込めた。「切羽詰まった状況が、島全体を本気にさせている。知恵も出るし、結束も強まってい

る。」

(魅力の紡ぎ方取材班・長浜真吾) 第1部おわり